得ルトキハ、各々現ニ加ヘタル暴行又ハ生セシメタル傷害ニヨリテ、其ノ各個ノ傷害ヲ生セシメタルモノヲ証明スルコト能ハサルトキハ、除外例トシテ悔同者ニ準シ共犯例ヲ適用スヘキモノトス。(第二〇七条)

(イ) 他人ノ身体ヲ傷害シタル罪。(第二〇四条)

(ロ) 他人ノ身体ヲ傷害シ、因テ人ヲ死ニ致シタル罪、(傷害致罪)

(イ) 自己又ハ配偶者ノ直系尊属ニ対スル場合、(第二〇五条二項)

(ロ) 其ノ他ノ者ニ対スル場合、(第二〇五条(一項))

(ハ) 他人カ身体ヲ傷害スル罪ヲ実行スル際、現場ニアリテ其ノ他人ニ助勢セル罪、(第二〇六条)

此ノ罪ノ犯人カ自ラ人ヲ傷害セルトキハ全時ニ、普通ノ身体傷害罪ノ犯人ト此レヲ認ムヘキモノトス。

第三、傷害ヲナスニ至ラサル暴行罪、(第二〇八条)

此ノ罪ハ告訴ヲ待テ之レヲ論スヘキモノトス。

第二十八章　過失傷害ノ罪

第一、業務上ノ過失ニヨリテ他人ヲ傷害シタル罪及ヒ因テ人ヲ死ニ致シタル罪。(第二一一条)

第二、其ノ他過失ニヨリテ他人ヲ傷害シタル罪及ヒ因テ人ヲ死ニ致シタル罪。(第二一九条、第二一〇条)

本罪中他人ヲ傷害シタル罪ハ、告訴ヲ俟テ之レヲ論スヘキモノトス。

第二十九章　墮胎ノ罪

第一、墮胎ノ罪。

墮胎トハ人為的ニ胚胎ヲ排出セシムル行為ヲ云ヒ、胚胎トハ

發育ノ程度如何ヲ論セス、既ニ受胎后分娩前ニ於テ子宮内ニアル物ヲ云フモノトス。

刑法ハ藥物ヲ用ヒ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テト規定ス、而シテ其ノ他ノ方法ヲ以テト規定スル以上ハ、墮胎ノ方法如何ハ之レヲ区別スルノ必要ナシ。

第二、墮胎罪。

此ノ罪ノ主体ハ懷胎ノ婦女ニシテ、其ノ被害者（客体）ハ胚胎ナリトス。或ハ此ノ罪ヲ以テ国体ノ法物ニ特ニ善良ノ風俗ニ干スル罪ナリトナスモノアリト雖モ余ハ之レヲ採ラス、此罪ハ理論懷胎ノ婦女カ自身墮胎手術ヲ施シ、墮胎シタル行為ニ干ス。故ニ懷胎ノ婦女カ他ニ囑托シテ墮胎手術ヲ施サシメタルトキハ、理論上墮胎セシメタル罪ノ教唆犯ヲ以テ論セサルヲ得ス。

第三、墮胎セシメタル罪。

(イ) 墮胎ノ嘱託ヲナシ又ハ墮胎ヲ承諾セル婦女ヲシテ墮胎セシメタル罪。此ノ罪ノ客体モ亦胚胎ナリ。

(イ) 医士、産婆、藥剤士又ハ藥種商カ犯シタル罪。（第二一四条）

此ノ罪ハ帝国臣民カ帝国外ニ於テ犯シタル場合、又ハ外国人カ帝国臣民ニ対シ、帝国外ニ於テ犯シタル場合ニ其ノ適用ヲ有ス（第三条）而シテ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ、比較的重キ刑ヲ科スヘキ罪トナル。

(ロ) 其ノ他ノ者カ犯シタル場合（第二一三条）因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ、比較的重キ刑ヲ科スヘキ罪ヲ成立セシム

(2) 墮胎ノ嘱託ヲナサス又ハ墮胎ヲ承諾セサル婦女ヲシテ墮胎セシメタル罪及ヒ其ノ未遂罪（第二一五条、第二一六条）

本罪ノ結果婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ニ比較シ重キニ

従テ処断ス、而シテ本罪ニハ刑法第三条ノ適用アリ。

第三十章　遺棄ノ罪。

第一、遺棄罪。

遺棄トハ他人ヲ保護スル義務ヲ免ルヽ目的ヲ以テ離隔スル作用ヲ云フ、而シテ保護義務トハ単ニ法上ノ義務ノミナラス、事実ノ義務即チ老幼不具又ハ疾病ノ為メ扶助ヲ要スヘキモノヲ保護スヘキ義務ヲモ包含シ、遺棄トハ保護スヘキ義務ヲ有スル他人ヲ隔離スル作用ヲ云ヒ、被遺棄者ノ現在地ヲ変更スル行為ノミナラス、遺棄者自身カ其ノ現在地ヲ変更スル場合ヲ云フ。

(イ)　老幼不具又ハ疾病ノ為メニ扶助ヲ要スヘキ者ヲ遺棄シタル罪。(第二一七条)

此ノ罪ノ結果之レヲ死傷ニ致シタルトキハ、傷害ノ罪ヲト比較シ重キニ従テ処断ス。(第二一九条)

(ロ)　老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護スヘキ責任アル者カ、之レヲ遺棄シタル罪。

此ノ罪ノ結果因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ、傷害ノ罪ニ従ヒ重キニヨリテ処断ス。(第二一九条)而シテ本罪ニハ刑法第三条ノ適用アリ。

(イ)　犯人又ハ其配偶者ノ血系尊属ニ対スル場合。(第二一八条二項)

(ロ)　其ノ他ノ者ニ対スル場合。(第二一八条一項)

第二、老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護スヘキ責任アルモノカ、其ノ存在ニ必要ナル保護ヲナサヽル罪。

此ノ罪ノ結果人ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ従テ処断ス。(第二一九条)而シテ本罪ニモ刑法第三条ノ適用アリ。

第三十一章　逮捕監禁ノ罪。

此ノ罪ハ行動ノ自由ヲ剝奪セル行為ニ干ス、故ニ行動ノ自由ヲ有セサルモノ、即チ精神喪失者ニ対シテハ本罪ヲ豫想スルコトヲ得スト雖ヘ、行動ノ自由ハ例ヘハ敵者ノ如ク他人ノ体内ニヨリテ之レヲ有スルコトヲ妨ケス、刑法ハ特ニ不法ニト規定スレトモ、不法トハ違法ノ意義ニシテ、違法行為ニアラサレハ罪トナラサルコト勿論ナルヲ以テ、要スルニ不必要ナル文字ナリ、此ノ罪ノ結果人ヲ死傷ニ致シタルトキハ、傷害ノ罪ニ比較シ、(第二二一条)重キニ従ヒテ処断ス。

第一　逮捕ノ罪。

逮捕トハ捕縛又ハ制縛スルコトヲ云ヒ、必スシモ縄ノ如キモノヲ使用スルコトヲ要セスト雖ヘ、直接ニ身体ニ対シ抑制ヲ加ヘ、其ノ行動ヲ制限スルノ作用ヲ云フ、此ノ罪ハ第二二〇条一項ニ規定セラレ、犯人又ハ其ノ配偶者ノ直系尊属

ニ対スルトキハ第二二〇条二項ノ罪トナル。

第二　監禁罪。

監禁トハ一定ノ場所外ニ脱出セサラシム作為ヲ云ヒ、直接身体ニ抑制ヲ加ヘスシテ、其ノ行動ヲ制限スルモノトス。而シテ被監禁者ヲシテ精神カ器械力又ハ人力ニヨリ有形的ニ監禁セラレタルト同一状態ニ保タシムル作用、即チ無形的監禁ハ概ネ暴行又ハ脅迫ニヨル監禁ニシテ、要スルニ罪トナルヘキ監禁ノ一種ナリトス、尚ホ風俗ヲ害スル行為ヲナスニアラサレハ脱出シ難キ状況ニ置ク作用、即チ道徳的監禁モ亦無形的監禁ト認ムヘキ場合少シトセス。本罪ハ所謂継続罪ナリトス。

第三十二章　脅迫ノ罪。

第一　脅迫罪。(第二二二条)

脅迫トハ他人又ハ親族ノ生命、身体、自由、名誉又ハ財産ニ対シ害ヲ加フヘキ旨ヲ以テ、其ノ他人ヲ脅迫セル行為ニ干ス、而シテ他人又ハ其ノ親族以外ノ者ニ害ヲ加フヘキ旨ヲ以テ、其ノ他人ヲ脅迫スル行為カ本罪ヲ構成セサルコトハ注意ヲ要ス。

第二、制圧罪。

制圧罪トハ暴行ヲ用ヒテ他人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ、又ハ行フヘキ权利ヲ妨害シタル罪、及ヒ其ノ未遂罪、他人又ハソノ親族ノ生命、身体、自由、名誉又ハ財産ニ対シ害ヲ加フヘキ旨ヲ以テ、脅迫ヲナシ其ノ他人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ、又ハ行フヘキ权利ヲ妨害セル罪及ヒ其ノ未遂罪ニ干ス。（第二二三条）

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪。

略取トハ暴行又ハ脅迫ニヨリ強制的ニ人ヲ他所ニ移特セシム行為ヲ云ヒ、誘拐トハ他人ヲ誘惑シ、又ハ錯誤ニ陥レテ任意的ニ之レヲ他所ニ移特セシムル行為ヲ云フ、而シテ本章ニハ第三条ノ適用アリ。

第一、未成年者ヲ略取シ又ハ誘拐シタル罪及ヒ其ノ未遂罪。（第二二四条、第二二八条）

第二、営利、猥褻、若クハ結婚ノ目的又ハ人ヲ帝国外ニ輸送スル目的ヲ以テ、人ヲ略取シ又ハ誘拐セル罪及ヒソノ未遂罪。（第二二五条、第二二六条）

第三、帝国外ニ輸送スル目的ヲ以テ人ヲ売買シタル罪及ヒ其ノ未遂罪。（第二二六條、第二二八条）

第四、被拐取者又ハ被売者ヲ帝国外ヘ輸送セル罪及ヒ其ノ未遂罪、（第二二六条、第二二八条）

第五、前四号ノ犯人ヲ幇助スル目的ヲ以テ、被拐取者又ハ被売者ヲ隠匿シ、又ハ隠秘セシメタル罪及其ノ未遂罪、（第二

二六条、第二二八条)

第六、営利若クハ猥褻ノ目的又ハ第一号乃至第四号ノ犯人ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受セル罪及ビ其ノ未遂罪。(第二二七条、第二二八條)

営利以外ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ略取、誘拐セル罪、猥褻若クハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取、誘拐シタル罪、未成年者ヲ略取、誘拐セル犯人又ハ営利、猥褻若クハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取、誘拐セル犯人ヲ幇助スル目的ヲ以テ、且ツ営利以外ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被売者ヲ收受若クハ隠匿シ、又ハ隠秘セシメタル罪

猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル罪及ビ之レ等ノ罪ノ未遂罪ハ告訴ヲ待チテ論スベキモノトス、但シ被拐取者又ハ被売者カ犯人ト婚姻ヲナシタルトキハ、婚姻ノ無效又ハ取消ノ確定裁判后ニアラサレハ其ノ告訴ハ效力ナシ。(第二二九条)。而シテ告訴权者ハ刑訴法ニヨリ被害者ナリト

雖モ、未成年者ニツキテハ、其ノ法定代理人モ亦其ノ被害者ナリトス。

第三十四章　名誉ニ対スル罪。

名誉トハ一人カ他人ノ間ニ於テ敬重セラルヽ事実、即チ一人カ他人ノ間ニ於テ不利益ニ批評セラレサル事実ヲ云ヒ、所謂利益不利益ハ社会上ノ地位又ハ道義上ノ地位ニ関スルモノトス。而シテ死者及ビ人ノ事実上ノ集団ハ上述ノ地位ナキヲ以テ、名誉ヲ有スト雖モ、精神障害者、幼者及ビ法人ハ名誉ヲ有ス。

名誉侵害ノ行為ハ広義ノ侮辱ニ外ナラスシテ、之レヲ狭義ノ侮辱又ハ形式的侮辱即チ直接ニ人ノ体面ヲ害シ、間接ニ其ノ名誉ヲ侵害スル行為ト、誹謗即チ直接ニ他人ノ名誉ヲ侵害スル行為、特ニ他人カ不利益ノ批評ヲ蒙ルヘキ具体的ノ事実ヲ第三者ニ対シテ発表スル行為等ニ区別スルコトヲ得、而シテ本罪ハ常

ニ告訴ヲ俟チテ論スヘキモノトス、（第二三二条）

第一、誹謗罪又ハ名譽毀損罪。

此ノ罪ハ公然事実ヲ摘示シテ他人ノ名誉ヲ毀損シタル行為ニ干シ、刑法第三條ノ適用アリ、而シテ本罪ニツキテハ其ノ氏名、名称、其ノ特徴ニヨリ容体ヲ明示スルコトヲ要ス、故ニ概括名義ニヨリ誹謗セル場合ニ於テハ、之レヲ主観的ニ観察シテ犯人カ此ノ概括名義ニヨリ名誉ヲ毀損セントシタル範囲内ノ他人ノミヲ誹謗シタルモノト決定スヘシ。

一、直接ノ誹謗罪ハ事実ノ有無ヲ区別セスシテ成立ス。

二、間接ノ誹謗罪ハ或ル人ノ名誉ヲ毀損スル範囲ヲ以テ依テ其ノ者ノ名誉ヲ毀損スルニ至ルヘキ密接ノ関係ヲ有スル死者ノ生前ノ名誉ヲ毀損スヘキ事実ヲ発表シタル行為ニ干シ、其ノ事実カ不実ナル場合ニ限リテ成立ス。而シテ死者ニ干スル誹謗罪ノ成立ニツキテハ異説アリ、或ハ死者モ亦名誉ヲ有シ、死者ニ対スル誹謗罪ヲ認ムルモノアリ、或ハ此ノ罪ヲ善良ノ風俗ヲ害スル罪ノ一種ト認ムルモノアリ。

第二、侮辱罪。（第二三一条）

公然人ヲ侮辱シタル行為ニ干シ、単ニ不利益ノ批評スルヲ以テ足レリトシ、刑法ニ明示セル如ク事実ノ摘示アルコトヲ必要トセス。

第三十五章　信用及ヒ業務ニ対スル罪

第一、虚偽ノ風説ヲ流布シ、又ハ偽計ヲ用ヒテ他人ノ信用ヲ毀損シタル罪。

信用トハ財産権上ノ融通ニ干シテ享有スル信任ヲ意義シ必ズシモ商行為上ノ信任タルコトヲ必要トセス、偽計トハ凡ヘテ人ヲ錯誤ニ陥ラシムヘキ手段ヲ云フ。

第二、虚偽ノ風説ヲ流布シ、又ハ偽計若クハ威力ヲ用ヒテ他

人ノ業務ヲ妨害シタル罪。（第二三三条、第二三四条）

威力トハ暴行又ハ強迫ヲ云フ、而シテ公務執行妨害行為ニツキテハ、特別ノ明文アルコトニ注意スルヲ要ス。

大正二年五月二十六日終了。

刑法各論完

14
654

終